

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学びを通じて、自分のよさや可能性を認識し、多様な他者とつながり協働する力を育み、持続可能な社会の主体を育成する学校づくりをめざす。 1 様々な生活背景を抱える生徒を深く理解し、生徒のやる気を引き出し、基礎学力の定着と社会的自立に必要なスキルと態度を身につける。 2 様々な人との出会いを通じて共感性を高め、多様な他者を尊重する態度を育み、全ての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。 3 自主活動の推進、系統的なキャリア教育、社会問題の理解を通して、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。
--

2 中期的目標

生徒が学びの豊かさを実感し、自尊感情を高め、他者と共感し、地域社会に貢献する力を育むために、教職員は専門性と同僚性を発揮し、生徒の変化・成長を活力とし分かち合う。 【生徒に育みたい力】 ① 自らを価値ある存在として大切にできる力 ② 他者に共感しつながる力 ③ 社会に主体的に参画できる力 1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり (1) 「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善に取り組む。 ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。 生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究し、自尊感情が高まる授業、やればできると実感できる授業をめざす。 イ 生徒が「考える力」を身に付けることができるように授業内容を工夫する。(エンパワメントタイムの内容の充実を全教職員で取り組む。) 全ての教科で「授業を受けて何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の「学習力」向上を意識した授業を実施し評価につなげる。 ウ ICT機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を、令和5年度以降も80%を維持する。(R2・R3・R4:71%・78.4%・84.7%) 2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信 (1) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。 ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「誰一人取り残さない」学校づくりをめざす。SC、SSWと連携し、生徒情報共有会議を密接に行う。 イ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携することにより、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。 ウ 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動などの自主活動の活性化を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を、令和5年度以降も70%を維持する。 (R2・R3・R4:64%・61.4%・79.0%) (2) 進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。 ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。 日々の学習が進路実現につながることを意識し、1年生から3年後を考えた進路保障に取り組む。 イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。 ウ 生徒の問題行動の背景・要因を深く掘り下げ、行動変容につながる指導援助を行い、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。 個々の生徒の状況に応じた寄り添った支援、生徒・保護者が納得できる指導と支援を実施する。 ※ 就職内定率の向上をめざし、令和7年度には95%以上とする。(R2・R3・R4:96%・98.3%・100%) (3) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。 ア 個の尊厳を重んじ、教職員自身が人権意識・人権感覚を研ぎ澄ますことで、人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止に努める。 イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を令和5年度以降も80%を維持する。(R2・R3・R4:75%・72.5%・86.5%) (4) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。 ア 授業を積極的に公開するとともに、授業や行事等の高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報する。 イ 「誰一人取り残さない学校」を中学校、中学生・保護者にアピールするとともに、生徒自主活動を活性化させて、「誰一人取り残さない学校」から「生徒自らが主体的に活動する学校」へのステップアップをめざす。 ウ 地域と積極的に関わることでボランティア活動を活性化し、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。 3 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上 (1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。 (2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。 (3) 不登校などの理由で登校できない生徒の「学びの保障」の観点からICT環境を早期に整備する。 (4) 働き方改革の取り組みを進め、教職員の負担を増大させないために積極的に外部人材を活用し業務の効率化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【結果と分析】 ＜生徒向け＞回答数 412（昨年度 452） ●「③長吉高校の授業は、わかりやすい。」については、全体として 88.8%で、目標の 80%を大きく上回った。各学年で 85%を上回っており、特に3年生においては 90%以上と高い数値となった。教職員の授業改善や工夫が生徒に効果的に作用していることがわかる。また、タブレットやICT機器を活用している（教員、生徒ともに 90%以上）ことも、この結果に表れている。 ●「⑥長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う。」については、全体として 78.9%で、昨年度より 5%以上増加した。 ①「正解が一つでない問題に取り組む」授業のエンパワメントタイムがうまく作用している。特に1年生では「産業社会と人間」、3年生では「ソーシャルスキルトレーニング」など特化した科目があることが、数値につながっている。 ②特に1年生の数値が高まり（69.1⇒79.9%）、「正解が一つでない問題に取り組む」授業のエンパワメントタイムやモジュール授業での工夫が、結果に表れた。 ●「⑬悩みや相談に、ていねいに応じてくれる先生がいる。」については、全体として 80.8%で、目標の 80%を維持することができた。学年で見た時も、昨年度より数値が増加しており（7期生：81.9%→88.7%、8期生 78.6%→79.3%）、生徒の悩みに対してきめ細かい対応を、教員全体として行っている成果だと思われる。 ●「⑱制限された中ではあるが、学校行事やHRは楽しい。」については、全体として 89.6%で、目標の 85%以上を維持することができた。特に3年生の数値が高く（93.9%）、文化祭で模擬店の緩和や学校行事への新しい取り組みなどが影響している。また、各学年が思考を凝らしたスポーツレクリエーション大会が生徒の数値の上昇につながったと考えられる。 ●「⑲自分からあいさつやお礼を言うことができる。」については、全体として 88.8%で、目標の 85%以上を維持することができた。毎朝の校長、教職員による正門での声掛け等、学校全体での取り組みによる成果だと思われる。 ●「⑳外国の文化に触れる機会が多く、多文化共生が進んでいる。」については、全体として 88.6%で、目標の 80%を維持することができた。コロナの影響を受けず学校活動が元の形なったことや、多文化共生を大きく推進するような特別な活動が、元に戻ってきていることが影響していると考えられる。 ＜保護者向け＞回答数 185（昨年度 185） ●「①学校はエンパワの教育方針を伝え、情報提供の努力をしている。」については、R2年度から 72%→76%→85.4%で、今年度は 82.7%と概ね高い数字を維持できている。学校からの連絡方法に、HP やメールによる情報配信、SNS に加え、校長ブログの更新を頻繁に行っており、それらのツールをうまく活用していることが、一定評価されたと思われる。 ●「⑩学校は将来の進路や職業などについて丁寧な指導を行っている。」については、R2年度から 64%→61%→74.5%で、今年度は 75.1%であった。学年別ではやはり3年生が一番高く（85.5%）、出口保障として学校での取り組みが一定評価されたと思われる。今後は2年生での数値（71.4%）を上げていく取り組みが必要である。 ●「⑰担任やその他の先生に相談しやすい。」については、R2年度から 66%→68%→71.3%で、今年度は 69.2%と横ばいである。1年 62.2%、2年 67.3%、3年 79.0%で、学年を重ねるに従い保護者の信頼が増していることがわかる。だが「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と否定的な回答は全体で 26.1%（昨年度：5.4%）と4人に1人という値になっており、早急に対策が必要である。学年別では1年 35.1%、2年 28.6%、3年 14.5%である。	第1回 令和5年6月24日（土） 〈報告〉 ①ES（エンパワメントスクール）6期生 卒業生の進路状況 ②ES9期生 新入生の状況報告 ③令和4年度学校評価及び令和5年度学校経営計画について ④長吉高校のSWOT分析 ⑤スクールポリシー策定について 〈協議内容・承認事項等〉 【協議内容】 「長吉高校のスクールポリシーについて」 昨年度策定した「スクールミッション」をもとに、スクールポリシー(高校の入口から出口までの教育活動の指針)について議論した。スクールポリシーとは、「生徒にどのような資質・能力を育成することをめざすか（グラデュエーション）」・「そのための教育課程（カリキュラム）の編成」・「入学時に期待される生徒像（アドミッション）」である。策定に向けて、「一人ひとりを大切にする長吉高校」であり、これまで 49 年の歴史を大切にしてい、この点を抑えた提示案に対して、概ね共感していただいた。 学科改変9年を迎えたエンパワメントスクールの取組みや、現在の生徒や教職員の実態を委員にお伝えし、様々な意見交換ができた。例えば、長吉高校には、中学生時代には主体的に活動できていない生徒が多く進学してきている。そういった生徒が活躍し、成長できる取組みが必要。また、生徒の「自尊感情」を高める取組みが求められる。その点を踏まえながら、3点（グラデュエーション・カリキュラム・アドミッション）を更に深めて考えていくべき。また、課題として、「学びなおし」「手厚い進路指導」「多様性を尊重」は生徒へも理解されているが、それ以外の取組みや活動等の情報発信が重要。中学校でも「自分で高校を探しなさい」という指導をしており、家でも探することができる状況（インターネット等）への情報発信できる仕組み作りに力を入れるべきなど貴重な意見をいただいた。 第2回 令和5年11月17日（金） 〈報告〉 ①第1回学校運営協議会のまとめ ②令和5年度1学期授業アンケートについて ③分掌・学年からの報告 〈協議内容・承認事項等〉 「今年度の様々な取組みと授業力の向上について」 運営協議会前に授業見学を行った。その感想等も含め、各学年の取組みについて協議した。授業においては、ICT教材をうまく利用し、生徒の能力にあった授業展開をしている。生徒に考えさせながら答えさせるような取組みもあり、評価は高かった。「生徒が積極的に授業に参加できる環境作りを教員が大切にしていると感じる」という意見をいただいた。生徒層も変わって来ており、地域から高い評価を得られるようになった。来年度、近隣の高校の募集停止に伴い、志願者が増えることが予想される。中学校との連携をしっかりとおくべきだというご意見もいただいた。また、日本語指導が必要な外国ルーツの生徒が全国的に増えているので、長吉高校としても日本語指導が必要な生徒への進路保障へ力を入れていかなければならない。「学びなおし」としての長吉高校のニーズは確実にあるが、中学校の若手の教員は「面倒見がいいのは私学」という認識が強いので、しっかり地域にアピールし、理解してもらうことが大切になってくる。 ○「学校の現状の理解と課題について」 ・学校運営協議会に先立って授業見学を実施した。その感想等も含め、長吉高校生の授業に対する取組みについて肯定的な意見が多く出た。 ・挨拶ができる生徒が増えてきている。社会にでてもからも、とても重要なことである。 また、企業としては、現在売り手市場であるが、コミュニケーション力は重要であること。それを身に付けるために、学校としての取組みの充実を図っていかなければならない。 第3回 令和6年2月3日（土） 〈報告〉 ①令和5年度 第2回学校運営協議会のまとめ ②令和5年度 2学期授業アンケートについて ③令和5年度 学校教育自己診断について ④令和5年度 学校経営計画及び学校評価について ⑤令和6年度 学校経営計画について ②2学期の授業アンケートについて

＜教職員向け＞ 回答数 63（100%）

- 「①生徒は授業にまじめに取り組んでいる。」については、
R 2 年度から 53%→58%→65.0%で、今年度は 63.5%と横ばいである。生徒への質問「①私は授業にまじめに取り組んでいる」は、R 2 年度から 86%→86%→88.9%で、今年度は 90.8%、生徒への質問「②長吉の生徒は授業にまじめに取り組んでいる」は、R 2 年度から 63%→54%→56.7%で、今年度は 67.0%であった。
- 「⑥カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」については、
R 2 年度から 77%→71%→84.1%で、今年度は 87.3%と横ばいではあるが高い数値となった。
- 「⑩生徒や保護者の意見を聞く姿勢がある。」については
R 2 年度から 90%→92%→95.2%で、今年度は 90.5%と減少しているが、高い数値を維持している。生徒、保護者への質問「担任等と相談しやすい」は生徒が 80.8%（昨年度 79.0%）、保護者が 69.2%（昨年度 71.3%）で教員の思いと生徒、保護者の受け取り方には差がある。
- 「⑰わかる喜びや学ぶ意欲を呼び起こし生徒の力を引き出す学校である。」については、
R 2 年度から 61%→85%→98.0%で、今年度は 84.1%で大幅に減少している。ここ 3 年は高い数値ではあるが、エンパワメントスクールに適した学校づくりに対しての共通の認識をもつことが大切であり、そういった意見交流の場が必要である。
- 「⑲学校の教育活動について、教職員で日常的に話合っている。」については、
R 2 年度から 63%→90%→90.5%で、今年度は 85.6%と高い数値を維持している。教員間で日常的に情報共有する機会や時間が増えることができたと考えられる。
- 「⑳教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」については、
R 2 年度から 50%→87%→84.8%で、今年度は 77.7%と減少した。学校教育自己診断やアンケート、提案などを具体的な指導方針や方法として速やかに盛り込んでいくことが重要である。

＜教育庁等の指示により、この数年間で追加した項目について＞

◆いじめについて

- ・生徒対象
「⑭いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」については、
R 2 年度から 70%→57%→78.9%で、今年度は 84.8%と大きく増加している。いじめや差別に対して教職員がアンテナを張り、丁寧に対応していることで生徒の教職員に対する信頼が大きくなっていることの表れだと思われる。
- ・保護者対象
「⑫いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」については、
R 2 年度から 47%→47%→71.9%で、今年度は 68.1%であった。ただ、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答した保護者 24.9%と高い。生徒は 13.9%であるが保護者の認識としては、よくない数値となっている。早急の対応が必要だと考えられる。
- ・教職員対象
「⑬生徒間のいじめや差別につながる行動については未然防止に努め、事象が起きた場合には丁寧にかつ迅速に対応している。」については、
今年度は 98.4%（昨年度 98.4%）で高い数値を維持している。また、否定的な回答をした生徒は、今年度は 13.9%（昨年度 20%）と減少しており、一定の成果があった。すべての生徒が安心した学校生活を送れるようさらに努めなければならない。

◆校則・指導について

- ・生徒対象
「⑩学校の校則や指導について納得できる。」については、
1 年生 62.3（昨年度 1 年生 51.7%）、2 年生 46.7%（1 年次

- ・アンケートの回答者数は 470 名である。
 - ・アンケートの説明…アンケートは 9 つの質問で構成され、満点は 4 点となっている。
- ＜アンケートの結果と分析＞
- ・本学の科目数は 110 科目（モジュールも含む）あるが、例年、学年が上がれば上がるほど選択科目が多いことやよくある 2 年生の「中だるみ」により、授業のわかりやすさ（質問項目の⑤～⑦）に関しては、1 年生は数値が高く、2 年生で数値が下がり、3 年生で数値が上がるという傾向であった。しかし、今回は学年全体的に上がっていて、特に、2 年生の数値が上がっていた。
 - ・今回のアンケートで全体的に数値が高くなった背景には、教員自身のスキルアップや ICT の活用があると考えられる。公開授業期間を活用し、授業見学も活発におこなわれている。今後は、さらに「考える力」を身につける授業展開、やグループワークで「主体的」など、各々の教員の自己研鑽の意識を高める必要がある。

③令和 5 年度学校教育自己診断

- ・今年も保護者の回答率が非常に低くなっている（34%）。今後は、簡単な方法（フォーム作成ツールなど）や生徒への繰り返し連絡などが大切である。
- ・「授業がわかりやすい」の項目に関しては、全体として 88.8%であり、これは目標の 80%を大きく上回っている。
→これは教員の授業改善（タブレットの使用（使用率 90%）など）が考えられる。
- ・「教員は悩みや相談に、丁寧に応じてくれる」の項目に関しては、全体として 81%であり、目標の 70%を大きく上回っている。
- ・「多文化共生が進んでいる」の項目に関しては、校内・校外の活動がコロナ禍以前の状態に戻ったことも影響し、全体として 88%と高い数値となった。
- ・「いじめについて、真剣に対応してくれる」の項目に関しては、生徒は 84.7%と大きく増加し、保護者は 68.1%と微減だった。
- ・「校則や指導方針に納得している」という項目に関しては、半数程度の生徒が否定的であり、かつ、保護者も 70%ぐらいしか納得していない。
- ・「エンパワメントスクールに来て良かった。」が 10%上昇し、全体で 90%の大台に到達した。アンケートの数値全般が示すように、生徒の学校への満足度は上昇している。これをどのように維持していくか、また課題を改善していくか、結果を活かしていきたい。

④令和 5 年度学校経営計画及び評価

- ・昨年度に続き、学校教育自己診断の数値は上昇している。
- ・R 6 年度の選抜志願者数に見られたように、本校生徒の満足度の高まりが、学校の魅力向上→志願者増加に繋がったように感じている。
- ・生徒指導上の懲戒件数は激減した。入学生徒層の変化や、生徒対応をチームで協力しあっていることも大きな要因。
- ・エンパワメントスクールに来て良かったと感じる生徒が初めて 90%以上を達成した。これは、「学び直し」「わかる授業」「各種行事の満足感」など、教職員の取組みの成果である。
- ・課題点は、「担任やその他の先生に相談しやすい」「学校の校則や指導について納得できる」割合の向上、自主活動の伸長、ルーツ生とそれ以外の生徒との交流を増やすといった取組みが必要である。また、ICT で業務の円滑化を更に進めることや、業務ストレスを感じている教員への対処など今後の課題と考えられる。

⑤令和 6 年度学校経営計画

- ・概略を図示し、分かりやすく示した。
- ・本校の強みである「安全安心に学べる環境づくりと進路保障の実現」と「人権・多様性を尊重する教育の推進」を柱として記載する枠組みに変更した。
- ・また、R 6 年度「選ばれる学校へ」魅力発信を大きな課題とする。具体的には、自主活動（生徒会・部活・ボランティア）の更なる活性化や、高校 P R の工夫をしていく。
- ・学校力の向上として、事務作業時間の軽減で生徒と向き合う時間を確保する。また、人材育成（ミドルリーダー・経験年数の少ない教員）、同僚性の向上により働き方改革を促進していく。

＜協議内容・承認事項等＞

学校教育自己診断の結果を踏まえながら、R 5 年度の学校経営計画の評価と R 6 年度の学校経営計画について協議した。先生方の日頃からの生徒への対応、指導がきめ細かく行われていることが、教育自己診断の結果に反映されており、一定評価された。来年度以降も生徒募集に苦慮する条件が多く、「中学生から選ばれる学校」であるために、情報発信が大切であるという意見をいただいた。次年度は 50 周年の節目の年度でもあり、校内でも「長吉の良さ」をどのように発信ができるかを検討していく。現在の良い所は残し、改善すべき所は改善するという事で、R 5 年度の学校経営計画の評価及び、令和 6 年度の学校経営計画については承認された。

51.7%)、3年生 58.3%（2年次 55.7%）、全体としては 56.0%（昨年度 53.3%）であった。半数程度の生徒が否定的な回答をしている。また、2年生で数値が減少している。引き続き校則や指導の意味を丁寧に説明し、ルールや校則が自分たちのためであり、自分を守ることに繋がると思えるようなルールや指導内容を考えていくことが喫緊の課題である。

・保護者対象

「④学校の校則や指導方針に共感できる。」については、
1年生 66.2（昨年1年生 63.9%）、2年生 67.2%（1年次 64%）、3年生 74.2%（2年次 73%）、全体として 69.2%と一定の理解は得ているが、否定的な回答が 27.6%あり、この数値を下げていく取組みが必要である。

◆学校へ行く楽しみについて

・生徒対象

「②学校へ行くのは楽しい。」については、
1年生 87.0%（昨年1年生 69%）、2年生 85.9%（1年次 69%）、3年生 93.9%（2年次 65%）で、全体は 88.6%（昨年度 67%）と大幅に増加しており、教職員の取組みの大きな成果である。

・保護者対象

「④子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」については、
1年生 74.3%（昨年1年生 74%）、2年生 71.4%（1年次 74%）、3年生 79.0%（2年次 64%）で、全体は 75.1%（昨年度 74%）と増加している。
生徒、保護者ともに2年生では少し数値が低くなる傾向がある。

◆エンパワメントスクールへの満足度

・生徒対象

「②④エンパワメントスクールに来てよかった。」については、
1年生 92.6%（昨年1年生 91%）、2年生 88.9%（1年次 91%）、3年生 92.2%（2年次 84%）で、全体は 91.3%（昨年度 81%）と大きく増加している。特に3年生が 90%以上と高い数値が出ている。

・保護者対象

「⑩子供をエンパワメントスクールへ入学させて満足している。」については、
1年生 87.8%（昨年1年生 83%）、2年生 85.7%（1年次 83%）、3年生 90.3%（2年次 83%）で、全体は 88.1%（昨年度 83%）と増加した。

令和5年度〈全体を通して〉

・コロナが収まり、学校行事を含め、通常の学校生活が送れるようになり、生徒の満足度がかなり上がった結果となった。また、中学校3年間でコロナ禍で過ごした1年生が、高校生活を送ったことも全体の数値を上げた要因であると考えられる。

全体として高い評価を得られていることは、学校側の取組みや指導方針が、ある程度生徒や保護者に理解されていると考えられるが、その分、学校側に対する期待が大きいことの現れであると考えられる。この数値を3年間維持することが重要である。そういった取組みを学校全体で考え、実行していくことが今後の課題である。加えて、「担任やその他の先生に相談しやすい」の否定的な部分の改善も重点課題としてとらえ、早期に改善していかなければならない。そのことは、校則についての生徒の納得、保護者の理解にもつながっていくと考えられる。

・教育庁再編成備課の分析によると、「③長吉高校の授業はわかりやすい」「⑥自分の考えや意見を伝える力がついた」「⑩先生の指導は納得できる」「⑱学校行事に満足している」等の項目と「学校満足度」を問う項目は相関関係があるといわれて、今年度は③⑥⑩⑱のすべての項目が高い数値となり、満足度も 81.2%→91.3%となり、初めて 90%を超える結果となった。
エンパワメントスクールの達成目標である「エンパワメントスクールに来てよかった」が 90%以上となり、今後、この数字を落とすことなく、生徒・保護者の意見を聞きながら工夫した取組みを行う必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 基礎・基本の定着とわかる授業づくり	(1)「わかる授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善。 ア 「わかる授業」づくりのための授業改善 イ 「考える力が身に付く授業」づくりのための授業改善 ウ I C T 機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化	(1) ア 生徒の学習状況(実態)に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。 イ 新学習指導要領を見据え「考える力を生徒自らが身に付けることができる授業」の開発に取り組む ウ 研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践。(生徒の努力や取組みをほめる機会を多くつくる。等)	(1) ア・他校の参考になる授業等を見学し、教科共有する取組を1回以上実施する。 ・公開授業週間を年間2回以上実施し、それらを活用し教員相互の授業見学を2回以上実施する。 ・学校教育自己診断結果における生徒の授業満足度80%以上の維持[84.7%] イ・「考える力を育む授業」「多面的な評価方法」について少数での意見交流ができる教員研修を2回以上実施する。 ウ・学校教育自己診断(教員)の「I C T 機器の活用」項目の肯定的回答90%以上の維持[90.5%]	(1) ア・エンパワメントスクール5教科研究授業を1回開催し、他校教員も参加し、内容を本校の教科でも共有。(○) ・6月、11月及び1月に公開授業週間を実施し、教員相互の授業見学を一人平均2.7回実施。(◎) ・「授業のわかりやすさ」肯定的回答は学校全体では88.8%(◎) イ・エンパワメントタイム研修会を本校で2回実施し研究協議実施。(○) ウ・学校教育自己診断(教職員)の「I C T 機器の活用」項目の肯定的回答90.5%(○) 【自己評価】 目標を達成。教員の研鑽の成果。
	(1)セーフティネットの拡充 ア 「誰一人取り残さない学校」づくり イ 図書室の活性化 ウ 学校行事の改善 部活動の活性化 (2)キャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進 イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上 ウ 社会的自立に必要なスキル・態度の育成 (3)人権教育の推進 イ 多文化共生の学校	(1) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導 ・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 ・保健カウンセリング部と各学年・分掌との連携の強化。 イ 図書室を充実させ居場所を作る。 ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。 ・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。 (2) ア・3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。 ・本校に配置される外部人材(C C、S S W、S C)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。 イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。 ウ・問題行動の未然防止に取組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。 (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。 ※(1)(2)(3)を通じて生徒の学校満足度を高める	(1) ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の肯定的回答80%[79%]。 ・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」(保護者用)の肯定的回答70%以上の維持[71.3%] イ・図書委員会を年1回以上開催する。 ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒用)の肯定的回答80%以上の維持[82.7%] ・早期から勧誘に力を入れ、年度末における1年生の部活動加入率40%以上をめざす。[32%] (2) ア・就職内定率95%以上とする[100%] ・外部人材を講師とする校内研修を年間1回以上実施する。 イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」(生徒用)の肯定的回答70%以上の維持[72.4%] ウ・懲戒件数を前年度以下に減少させる。[98件] ・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」(生徒用)の肯定的回答85%以上の維持[86.5%] (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を1回以上企画する。 ※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)の肯定的回答80%以上の維持[81.2%]	(1) ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の肯定的回答80.8%(◎) ・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」(保護者用)の肯定的回答69.2%(△) ・3年生1名に対して、大阪府高等学校教育支援センター(ルポン)を活用し社会的自立に向けた支援を行った。(○) イ・全体の図書委員会を1回開催。昼休み等の図書委員による図書当番も実施し、並行して「お薦め図書」MAPを文化祭前に完成させた。(○) ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒用)の肯定的回答89.6%(◎) ・年度末における1年生の部活動加入率41%(○) (2) ア・就職内定率100%(◎) ・「福祉的就労について」研修会を1回実施。(○) イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」(生徒用)の肯定的回答78.9%(◎) ウ・懲戒件数は51件で、前年度から大幅減となった。(◎) ・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」(生徒用)の肯定的回答88.8%(○) (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる校内行事(校内WaiWaitalk、多文化研究会の文化祭バザー、文化祭で全員がステージで舞う等)。校外行事(教育庁・ヒューマンライツフォーラム、WaiWaitalk、研究会主催、等)多数参加交流。(◎) ※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)の肯定的回答91.3%(◎)

府立長吉高等学校

	(4) 中学校等への広報強化 ア 授業公開	(4) ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。 ・HPを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。	(4) ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業を2回以上実施する。 ・学校行事や授業の様子をHPで紹介する。(月1回以上更新する。)	(4) ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業を3回(6、11、1月)実施(○) ・学校行事や授業の様子をHPで逐次紹介、特に校長ブログは120件をUPできた。(◎) 【自己評価】 目標を大幅に達成。ミッション遂行に向けた教職員のチーム力の成果。
3 ICTを活用した校務の効率化	(1) ICT等の活用による校務の効率化 (2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成 (3) ICT環境の早期整備 (4) 働き方改革の取り組みをさらに進める	(1) 校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。 (2) ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。 (3) 家庭学習を視野に入れたICT環境を整備する (4) ビジネス向けのSNS等を活用し、教職員への連絡・周知事項の徹底や、会議時間の削減を図る。	(1) 一部の教職員に集中する校務を削減し、ストレスチェックの総合健康リスクを前年度以下とする[98] (2) 教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を学期に1回以上実施する。 (3) 「電子黒板等ICT機器を活用し、授業を行った。」(教員用)の肯定的回答90%の維持[90.5%] (4) 年間を通じて1度以上、月間の時間外勤務が45時間を超えた教員数を20%削減する[20人]	(1) ストレスチェックの総合健康リスク107(△)。受検率(R4、75.4%→R5、55.9%)の低下が影響し、次年度の受検率UPが課題。 (2) 教員研修を各学期2回ずつ実施。(○) (3) 「電子黒板等ICT機器を活用し、授業を行った。」(教員用)の肯定的回答90.5%(○) (4) ・45時間超の教員数29名(△)部活動が活発になったことも一因。 ・会議資料のペーパーレス化、職員間共有事項の電子掲示板化を推進 【自己評価】 目標は達成。教職員の積極的な働きかけで、行事や部活動等で生徒の活躍の場面を創出。学校満足度向上の結果に。